

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 2 年目)

1. 研究課題

ブラフマニズムとヒンドゥイズム—南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性

Brahmanism and Hinduism: Change and Continuity in South Asian Society and Religion

2. 研究代表者氏名

藤井 正人

FUJII Masato

3. 研究期間

2016 年 04 月 - 2019 年 03 月 (2 年度目)

4. 研究目的

ブラフマニズム(バラモン教)は、ヴェーダ文献に基づく宗教儀礼と生活・社会規範を含む古代インドの支配的宗教体系である。その後の仏教やジャイナ教など、ヴェーダに基づかない非正統派の宗教の成立と前後して、ブラフマニズムの内部および周辺から、新しいタイプの信仰形態、宗教思想、宗教儀礼をもつヒンドゥイズム(ヒンドゥー教)が形成されていった。しかし、ブラフマニズムはヒンドゥイズムへと移行・解消したのではなく、両者はインドの社会と宗教の二つの基軸として、現代に至るまで並存し、混淆し、互いに影響を与え合ってきている。本研究は、ブラフマニズムとヒンドゥイズム、およびそれらと距離をおきながらも共存してきたその他の宗教との通時的および共時的関係に関する研究を通して、南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性を解明することを目的としている。

Brahmanism and Hinduism, although the latter succeeded the former historically, have coexisted, mingled with, and influenced each other as two fundamental religious and social systems in India. The present three-year research project intends to shed fresh light on change and continuity in South Asian society and religion by studying diachronic and synchronic relationships between Brahmanism, Hinduism, and other religions such as Buddhism and Jainism which keep a certain distance from these two mainstreams.

5. 本年度の研究実施状況

本研究では3年の研究期間を半年ごとの全6クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複数回の定例研究会とクール最後のシンポジウムを開催している。今年度前半の第3クールでは、古代および中世インドの神話と説話について、ヴェーダ、初期仏典、大乘経典、古典説話、ヒンドゥー教からの報告が行われ、10月に「古代・中世インドの神話、説話、表象」をテーマに第3回シンポジウムを人文科学研究所で開催した。後半の第4クールでは、ブラフマニズムとヒンドゥイズムにおける儀礼、制度、社会生活を取り上げ、定例研究会で報告を行うとともに、年度末に「古代インドにおける儀礼、制度、社会」(仮)をテーマに第4回シンポジウムを東京大学で開催予定である。

7. 本年度の研究実施内容

2017-04-28 「祭式における寸法:表象と現実のせめぎあいを見る」 発表者 手嶋 英貴
京都文教大学

2017-06-23 「神話の起源と伝承について―捨て子伝説に関する一考察―」 発表者 堂山 英次郎 大阪大学

2017-07-21 「神話における頭部の切断と再生について」 発表者 伊澤 敦子 国際仏教学大学院大学

2017-09-01 「ブリハッド・カタールに登場する王と神―カシミール系ブリハッド・カタールを中心に」 発表者 柴崎 麻穂 中村元東方研究所

「仏伝と大乘仏教の関係―降魔成道と阿闍仏」 発表者 佐藤 直美 宗教情報センター

「中世バクティ教団における出家者―マハーヌバーヴ派の聖者伝から―」 発表者 井田 克征 金沢大学

2017-10-07 第3回シンポジウム「古代・中世インドの神話、説話、表象」「古代インドの捨て子伝説をめぐって」 発表者 堂山 英次郎 大阪大学

「ヴェーダ文献における河川について」 発表者 山田 智輝 大阪大学

「神話における頭部の切断と再生について」 発表者 伊澤 敦子 国際仏教学大学院大学

「パーリ聖典におけるブラフマー神の諸相」 発表者 名和 隆乾 大阪大学

「降魔成道と阿闍仏」 発表者 佐藤 直美 宗教情報センター

「説話世界の輪転聖王―ブリハッド・カタール諸伝本の比較を通して」 発表者 柴崎 麻穂 中村元東方研究所

「中世マハーラーシュトラのバクティ教団における出家者の実像」 発表者 井田 克征 金沢大学

2017-11-17 「ジャイナ教文献に見られる葬送儀礼の一考察」 発表者 河崎 豊 東京大学

2017-12-15 「ヴェーダ入門・学習儀礼における帯と衣について」 発表者 梶原 三恵子 東京大学

2018-01-12 「Maitrāyaṇī Samhitā における非シュラウタ儀礼の記述について」 発表者 天野 恭子 京都大学白眉センター

2018-02-09 「『家系の継続』に関する一考察ー『シュナハシェーパの物語』と『クサ・ジャータカ』を中心として」 発表者 西村 直子 東北大学
「ヴェーダ祭式で用いる香[料]をめぐって」 発表者 大島 智靖 東京大学

2018-03-09 「『マハーバーラタ』における馬祀祭の位置づけとその歴史的背景について」 発表者 高橋 健二 京都大学文学研究科博士課程

2018-03-24 第4回シンポジウム「古代・中世インドの儀礼、制度、社会」「古代南インドのバラモン」 発表者 高橋 孝信 東京大学
「ヴェーダ文献に見られる牝牛崇拜の萌芽」 発表者 天野 恭子 京都大学白眉センター
「古代インドにおける『息子の獲得』」 発表者 西村 直子 東北大学
「儀礼における『香』の利用」 発表者 大島 智靖 東京大学
「入門儀礼と学習儀礼における衣について」 発表者 梶原 三恵子 東京大学
「『マハーバーラタ』における馬祀祭の位置づけについて」 発表者 高橋 健二 京都大学文学研究科博士課程

2018-03-25 第4回シンポジウム「古代・中世インドの儀礼、制度、社会」「法典のアルタ的要素と実利論のダルマ的要素」 発表者 沼田 一郎 東洋大学
「ジャイナ教文献に見られる葬送儀礼」 発表者 河崎 豊 東京大学
「王権儀礼から見た仏教と女神信仰の共存ーTapa Sardar 僧院遺跡をめぐって」 発表者 横地 優子 京都大学文学研究科
「ヴェーダ祭式『アグニチャヤナ』をめぐって」 発表者 井狩 彌介 京都大学人文科学研究所

8. 共同研究会に関連した公表実績

第3回シンポジウム「古代・中世インドの神話、説話、表象」 2017年10月7日 京都大学
 人文科学研究所 第4回シンポジウム「古代・中世インドの儀礼、制度、社会」 2018年3月
 24日・25日 東京大学文学部

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	0	2	0	0	0	24	0	0	0
学内	0	6 (2)	0	1	2	49 (22)	0	11	14
国立大学	0	16 (3)	0	1	2	125 (26)	0	5	16
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	3	3 (1)	0	0	0	27 (12)	0	0	0
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	2	12	0	0	9
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	27 (6)	0	2	4	225 (60)	0	16 (0)	30 (0)

※()内には、女性数を記載

13. 次年度の研究実施計画

次年度の研究実施計画 次年度(第3年度)前半の第5クールでは、「哲学・学問」をテーマに定例研究会で班員がそれぞれの専門から報告を行い、10月にこのテーマで第5回シンポジウムを開催する。第6クールでは、「現代へ／から」(変更の可能性あり)をテーマに定例研究会で報告を行うとともに、年度末に第6回シンポジウムを開催する。

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 14 回 国内出張旅費(延べ 70 人)	支出予定額 550,000 円
合計			550,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究では3年の研究期間を半年ごとの全6クールに分け、各クールごとにテーマを設定して定例研究会とシンポジウムを開催する。各クールのテーマとして、一年目は「知」「出家・苦行」、二年目は「神話・説話・表象」「儀礼」、三年目は「哲学・学問」「現代へ／現代から」を予定している。研究成果の公表としては、各クールの最後に公開シンポジウムを開催するとともに、定例研究会での報告とシンポジウムでの発表を踏まえて、各クールのテーマに関して論文を完成させ、複数巻の論文集として出版する計画である。